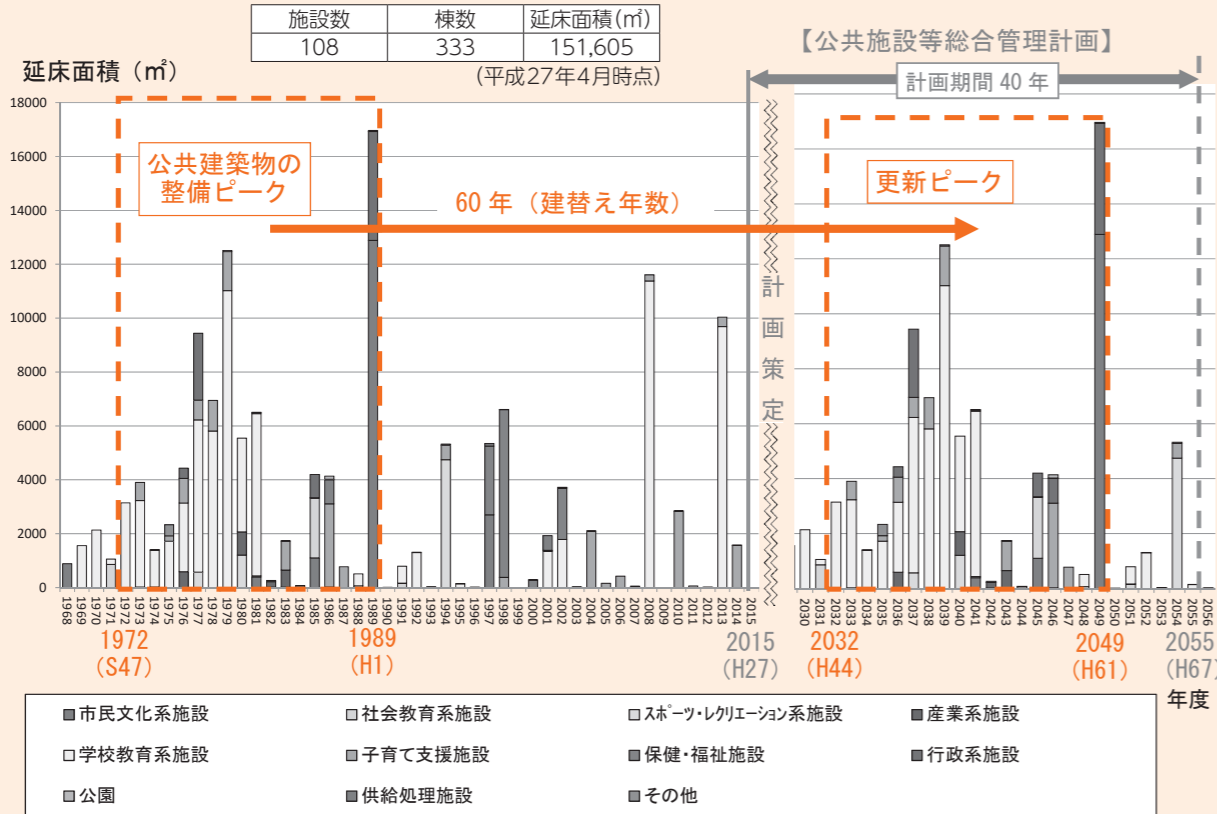


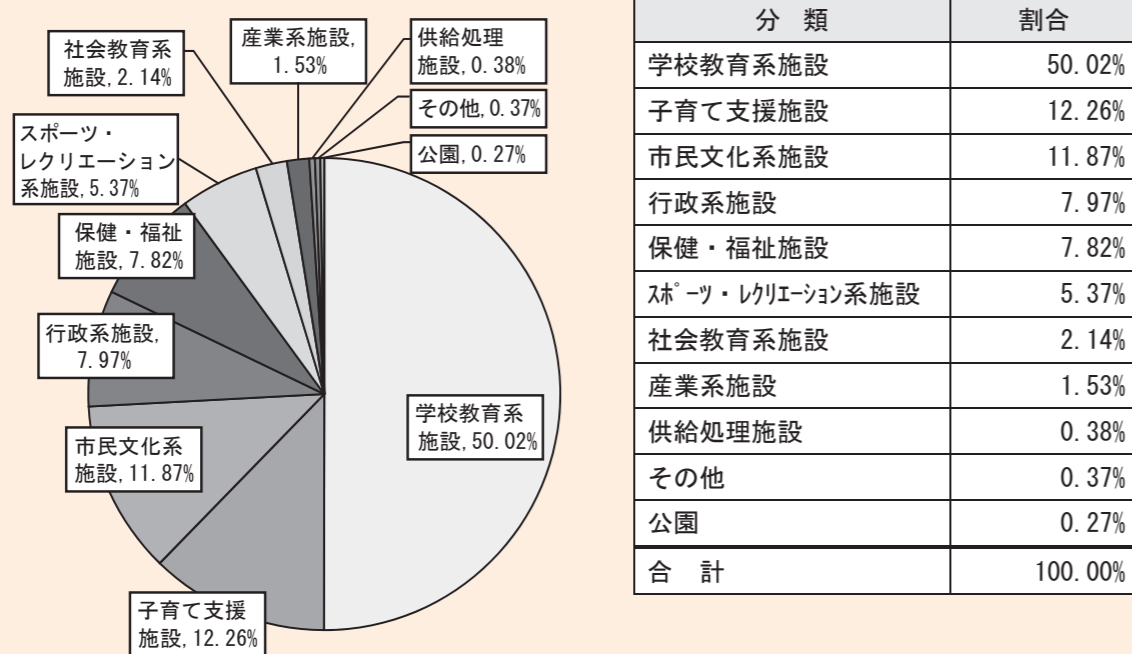
公共建築物(ハコモノ)の現況

本市が保有する公共建築物は、図2のとおり1970年代から1980年代にかけて集中的に整備され、既に30年以上を経過している施設も多く、15～32年後には、一斉に更新時期を迎えることが予測されています。また、図3のとおり、学校教育系施設が全体の5割を占めていることがわかります。

(図2: 公共建築物(ハコモノ)の整備年度別延床面積)



(図3: 公共建築物(ハコモノ)の用途別割合)



次回は、公共施設など(公共建築物・インフラ施設)にかかる経費の見込み(更新費用試算結果)についてお知らせします。

問 市役所秘書企画課 (内線224)

特集 弥富市の公共施設などを取り巻く状況を知るう! 《公共施設等総合管理計画》

第1回

～次世代を担う子どもたちに負担を残さないために!～

弥富市では、少子高齢化が進行していますが、今後、さらに団塊の世代が高齢期を迎えることから、社会福祉に係る費用の増加は年々加速する傾向である一方、人口減少に伴い、税収の減少が予測されます。また、これまで建設された公共施設などがこれから大量更新の時期を迎え、この費用が本市の財政に大きな負担となることは明らかです。こうした状況を踏まえ、本市は、平成28年3月に公共施設などの全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことで、財政負担を軽減・平準化するために、「公共施設等総合管理計画」を策定しました。

今月号より、数回にわたり「公共施設等総合管理計画」の内容についてお知らせします。

今後の人口減少と少子高齢化

本市の総人口は、高度経済成長期以降、これまで増加し続けてきましたが、弥富市人口ビジョンによると、今後は減少に転じ、38年後の平成67年(2055年)には、平成27年(2015年)の9割強にあたる40,386人となる見込みです。また、平成27年から平成67年にかけての40年間で、人口構成については、15歳から64歳の生産年齢人口の割合は、61%から53%まで大幅に減少するのに対し、65歳以上の老年人口の割合は、25%から32%まで増加しており、高齢化が進行していく見込みです。

ポイント!!

今後の人口減少、高齢化の更なる進行により、公共施設などに求められる将来の需要が大きく変化していくことが想定されます。

(図1: 弥富市人口ビジョンによる将来人口の推計)

